

予防接種

(令和3年1月現在)



京都市では、予防接種法に基づき、次の定期の予防接種を行っています。対象年齢の方は、接種されることをお勧めします。

種類	接種回数		接種対象年齢	実施場所	料金
ヒブ(Hib)感染症	接種開始が生後2月～7月未満 初回3回 追加1回	【初回接種】 27日(医師が必要と認めた場合には20日)から56日までの間隔をおいて3回又は2回	生後2月から60月(5歳)に至るまでの間にある人(生後2月から7月に至るまでの間に接種を開始することが望ましい)		
	接種開始が生後7月～12月未満 初回2回 追加1回	【追加接種】 初回接種終了後7月から13月の間隔をおいて1回			
	接種開始が生後12月～60月未満 1回	—			
小児肺炎球菌感染症	接種開始が生後2月～7月未満 初回3回 追加1回	【初回接種】 標準的には生後12月までに27日以上の間隔をおいて3回 【追加接種】 生後12月以降に、初回接種終了後60日以上の間隔をおいて1回(標準的には生後12月から15月に至るまでの間に、初回接種終了後60日以上の間隔をおいて1回)	生後2月から60月(5歳)に至るまでの間にある人(生後2月から7月に至るまでの間に接種を開始することが望ましい)		
	接種開始が生後7月～12月未満 初回2回 追加1回	【初回接種】 標準的には生後12月までに27日以上の間隔をおいて2回 【追加接種】 生後12月以降に、初回接種終了後60日以上の間隔をおいて1回			
	接種開始が生後12月～24月未満 2回	60日以上の間隔をおいて2回			
	接種開始が生後24月～60月未満 1回	—			
ジフテリア 百日せき 破傷風・ポリオ (DPT-IPV,DT又はIPV) 【※1】	第1期 初回接種(20日～56日の間隔をおいて3回) 〔 DT:20日から56日までの間隔をおいて2回 〕 〔 IPV:20日以上の間隔をおいて3回 〕	生後3月から90月(7歳6ヵ月)に至るまでの間にある人(生後3月から12月に至るまでの間に初回接種を受けることが望ましい)		協力医療機関 【※4】	無料
	第1期 追加接種 初回接種終了後、6月以上の間隔をおいて1回				
ジフテリア・破傷風(DT)	第2期 1回	11歳以上13歳未満の人(11歳時に接種を受けることが望ましい)			
麻しん・風しん(MR) 【※2】	第1期 1回	生後12月から24月に至るまでの間にある人			
	第2期 1回	小学校就学前の1年間にある人(いわゆる幼稚園の年長児に相当する人)			
水痘	2回 (1回目の接種終了後3月以上の間隔をおくこと。標準的には6月から12月の間隔をおいて接種することが望ましい)	生後12月から36月に至るまでの間にある人(生後12月から15月に至るまでの間に接種を開始することが望ましい)			
日本脳炎【※3】	第1期 初回接種(6日～28日の間隔をおいて2回) 第1期 追加接種(初回接種終了後おおむね1年後に1回)	生後6月から90月(7歳6ヵ月)に至るまでの間にある人(3歳時に初回接種、4歳時に追加接種を受けることが望ましい)			
	第2期 1回	9歳以上13歳未満の人(9歳時に接種を受けることが望ましい)			
子宮頸がん (ヒトパピローマウイルス感染症) * 当面の間、積極的な勧奨を控えています	3回	【2価ワクチン】(サーバリックス) 1月の間隔をおいて2回、1回目から6月の間隔をおいて1回(当該方法をとることができない場合は、1月以上の間隔をおいて2回、1回目から5月以上、かつ2回目から2年半以上の間隔をおいて1回) 【4価ワクチン】(ガーダシル) 2月の間隔をおいて2回、1回目から6月の間隔をおいて1回(当該方法をとることができない場合は、1月以上の間隔をおいて2回、2回目から3月以上の間隔をおいて1回)	12歳となる日の属する年度の初日から16歳となる日の属する年度の末日までの間にある女子(いわゆる小学校6年生～高校1年生相当の女子。なお、中学校1年生相当の間に接種を受けることが望ましい)		
B型肝炎【※5】	3回(1歳の誕生日の前日までに計3回) (27日以上の間隔をおいて2回、1回目の接種から139日以上の間隔をおいて1回)	生後1歳に至るまでの間にある人(生後2月から9月に至るまでの間に接種を受けることが望ましい)			
結核(BCG)	1回	生後1歳に至るまでの間にある人(生後5月から8月に至るまでの間に接種を受けることが望ましい)			
ロタウイルス【※6】 【※7】	ロタリックス	27日以上の間隔をおいて2回	出生6週0日後から24週0日後までの乳児(初回接種は生後2月から出生14週6日までの間に接種することが望ましい)		
	ロタテック	27日以上の間隔をおいて3回	出生6週0日後から33週0日後までの乳児(初回接種は生後2月から出生14週6日までの間に接種することが望ましい)		



【※1】DPT-IPV→4種混合ワクチン、DT→2種混合トキソイド、IPV→不活化ポリオワクチンのことです。

通常はDPT-IPVを用いて接種を行います。生ポリオワクチン・不活化ポリオワクチンの接種を受けたことがある、百日せきに罹患したことがある等の場合は、DT,IPVの接種を受けることもできます。ただし、接種回数等が異なることがありますのでご注意ください。

【※2】通常はMR(麻しん風しん混合)ワクチンを用いて接種を行います。特に希望する場合は、麻しん又は風しん単抗原ワクチンの接種を受けることもできます。

【※3】日本脳炎予防接種の第1期初回接種の標準的な接種期間は3歳からです。3歳未満は接種量が異なりますので注意してください。

また、日本脳炎の予防接種については特例措置があり、対象者は下記の通りです。

(1)平成12年4月2日～平成19年4月1日生まれで20歳未満の人は第1期・第2期の接種不足回数分の接種を受けることができます。

(2)平成19年4月2日～平成21年10月1日生まれの人は第1期の接種不足回数分の接種を受けることができます(ただし、9歳以上13歳未満の者に限る)。

【※4】協力医療機関については、京都市ホームページの「京都市が実施する子どもの定期予防接種について」をご覧ください。

京都いつでもコール(TEL:611-3755)でもご案内しています。

【※5】母子感染予防のため、健康保険の給付によるB型肝炎ワクチンの投与を受けた方は、定期予防接種の対象とはなりません。

【※6】令和2年8月1日以降に生まれた方が対象です。

【※7】ロタウイルスワクチンは2種類あり接種回数は異なりますが、予防効果や安全性に差はありません。接種するワクチンは医療機関により異なります。どちらも経口ワクチン(飲むワクチン)です。

